

事業活動を通じた 復興支援を継続

東日本大震災により被害を受けられましたみなさまに、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

そごう・西武ではセブン&アイグループとしての店頭募金、ボランティア活動等、お客さまをはじめ、みなさまとともに復興支援を行っています。

義援金店頭募金



そごう・西武では、セブン&アイグループの一員として3月13日～5月31日まで、被災者支援の義援金募金活動を実施。お客さまやお取引さま、従業員他からの義援金は約1億2千万円に上り、グループ全体では総額で約41億円を被災地に直接お届けしました。

おかいものクマチャリティ募金

あたたかい気持ちをください。
涼しい風をお返します。



おかいものクマのキャンペーンうちわを配布し、公益財団法人ジョイセフが実施している「被災地の女性、妊産婦、新生児支援のための募金」の呼び掛けを全店で実施。募金総額は約410万円になりました。

高輪会チャリティーオークション



そごう・西武のプレステージ催事「高輪会」において、お客さまやお取引さまのご協力を頂きながら、被災地支援のチャリティーオークションを実施。37点で総額約970万円になり、日本赤十字社にお届けしました。

復興支援ボランティア



そごう・西武は、セブン&アイグループの一員として、宮城県気仙沼市の九九鳴き浜の清掃を6月・9月に実施。また、津波で塩害にあった仙台市荒浜地区の農地に綿花を植え、収穫した綿を商品化する「東北コットンプロジェクト」にも参加しています。



このリーフレットは国連で管理されている環境負荷軽減事業によって削減された約4tのCO₂排出権を購入することで、印刷によって排出されたCO₂を相殺しています。算定割当量識別番号 JWPA-BAS-01-130



環境に配慮したFSCTM認証紙と環境汚染の原因にならない植物由来のインキを使用し、有害廃液を出さない「水なし印刷」で印刷しています。

そごう・西武 環境・社会活動 報告書



みんなのやさしさ、
つなぎたい。

株式会社 そごう・西武 CSR推進室

〒102-0084 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル
TEL 03(6272)7409・FAX 03(6272)7179

ホームページでも環境活動・社会貢献活動についてお知らせしています。
<http://www.sogo-seibu.co.jp/csr.html>

「次世代に続く豊かなくらしづくり」のために そごう・西武ができること。

2011年の東日本大震災以降、私たちの生活への考え方、企業の社会責任のあり方は大きく変化しました。そごう・西武では、セブン&アイHLDS.の一員としての取り組みと独自の取り組みによる震災復興支援を行うとともに、これまで行ってきた環境保全・社会貢献活動を変わず継続してまいります。

店舗における環境配慮、お客さまの安全・安心の追求、各種の社会貢献活動など、私たちの事業運営を通じた取り組みに是非、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

Contents

ECO ACTIONP.1
環境配慮への取り組み

Safety & Security ..P.6
安全・安心な売場作り

3つの社会貢献活動P.8
人道支援活動
植樹・育樹活動
国際貢献活動
震災復興支援巻末

そごう・西武 環境方針 基本理念

私たちは、企業市民として社会的責任を自覚し、環境・社会・経済が一体となった事業活動を通じ、お客さまやお取引先、地域とともに「次世代に続く豊かなくらしづくり」に取り組みます。

行動指針

1. 私たち自身の環境保全活動に加え、当社の事業活動を通じて、お客さまやお取引先の活動にも良い環境影響を及ぼすように努めます。
2. ①環境に配慮した品揃えやイベント、セミナーなどを通じたお客さまとのコミュニケーション強化
②社会貢献活動などを通じた地域、社会とのコミュニケーション強化
③地球温暖化防止対策や廃棄物の削減、リサイクルの推進などによる環境負荷の低減と環境保全の推進
④環境教育の継続による法令順守とリスクマネジメントの徹底を活動の重点に、仕組みや手法の継続的な改善に取り組みます。
3. 従業員に対する継続的な教育と啓発活動を行い、一人ひとりが環境や社会問題に自発的に取り組むことにより、お客さまや地域社会に役立つ、信頼される企業を目指します。
4. 挑戦的な目標を設定し、一人ひとりが達成に向けた活動を実践しながら結果の検証と改善を繰り返し、システムの向上を心がけます。

2009年8月1日

株式会社 そごう・西武 代表取締役社長 山下國夫

4つの柱と9つの取り組み(重点活動項目)

- | | |
|-----------------------|--|
| 1 お客さまとのコミュニケーションの強化 | ① 環境商品の選定と提案
② スマートラッピングの推進
③ 環境イベントの展開・強化 |
| 2 社会・地域とのコミュニケーションの強化 | ④ 地域との共生
⑤ 社会との共生 |
| 3 環境負荷の低減と環境保全活動の推進 | ⑥ 「地球温暖化」対策
⑦ 「循環型社会」の推進
⑧ 「省資源」の推進 |
| 4 コンプライアンスとリスクマネジメント | ⑨ 順法とリスクマネジメントの強化 |

そごう、西武は全店で ISO14001を取得しました

ISO14001の取得

1999年、西武全店で百貨店業界初のISO14001を取得。これは、環境負荷を可能な限り低減する企業姿勢のあり方を定めた国際的な規格であり、以来、さらなる改善に努めてまいりました。2011年には拡大審査を受審し、そごう全店でも取得しました。



大宮店審査風景



所沢店審査風景



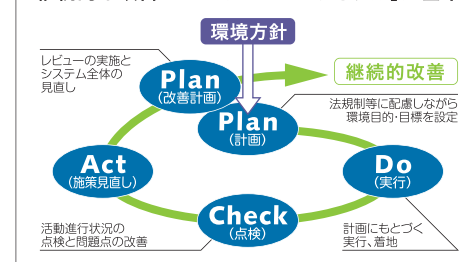
●ISO14001登録状況

登録番号 JQA-EM0401
 審査機関 財団法人日本品質保証機構
 登録範囲 そごう、西武全店舗
 法人外商部(関東・関西)
 本部(商品部、総務部)
 登録日 1999年4月9日
 有効期限 2014年4月8日

そごう、西武の環境マネジメントシステム

国際規格ISO14001にもとづき、トップマネジメントである社長の示した環境方針の達成に向け、各サイトがそれぞれ環境委員会を組織。Plan(目標・計画)→Do(実施と運用)→Check(実施結果の監視と測定)→Act(是正処置、見直し)の「PDCAサイクル」に沿って常にレベルアップしていくことを目指しています。

継続的な改善をはかる「PDCAサイクル」が基本

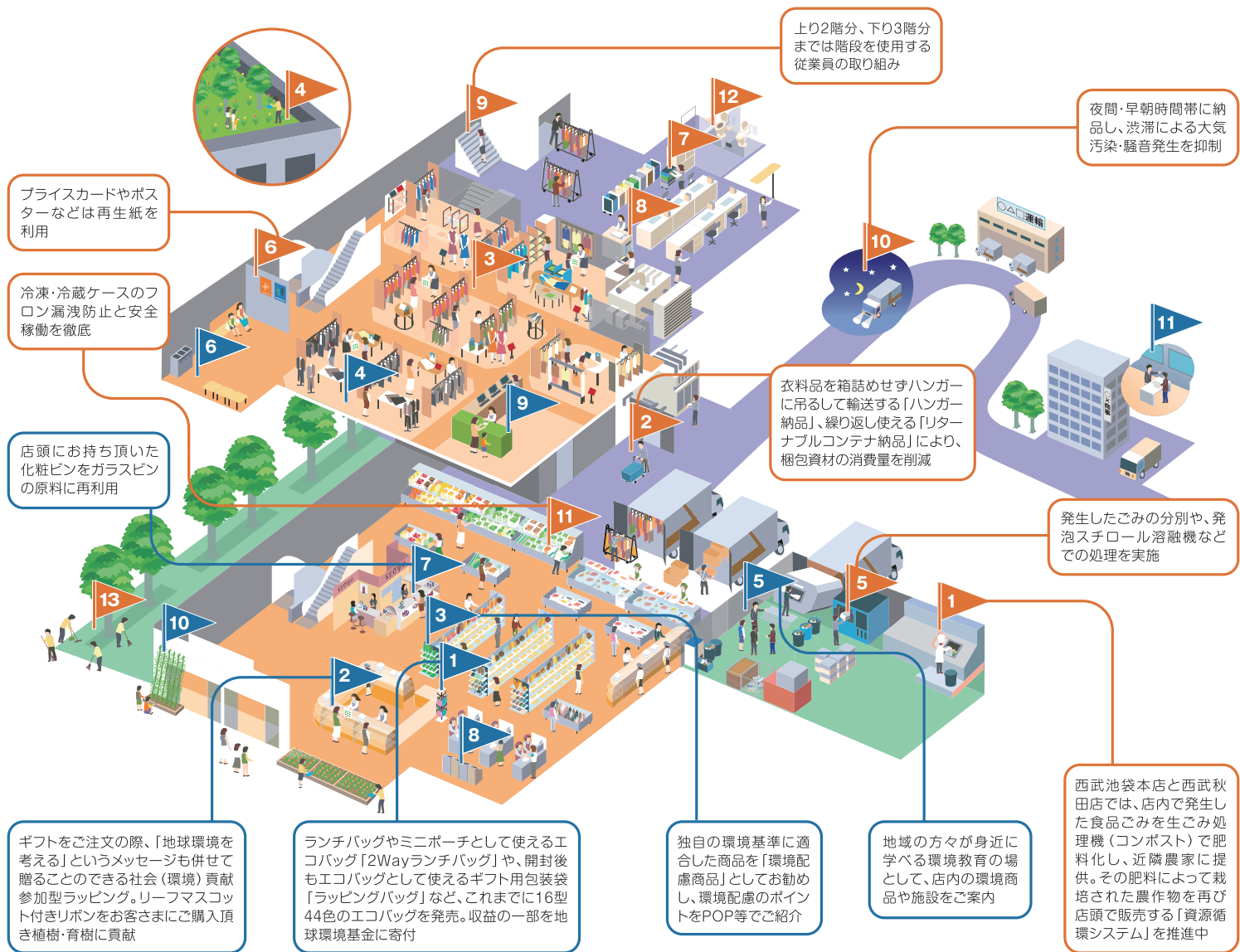


JQA-EM0401

アレもコレも実はエコ お店の中のエコアクション

店内の環境配慮MAP

ISO14001にもとづいたさまざまな工夫と改善が、実際にお店の中で実施されています。



お客さまのご協力によって実現するエコ

- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| 1 オリジナルエコバッグ | 7 化粧品のリサイクル |
| 2 グリーンラッピング | 8 容器トレイ・ペットボトル・牛乳パックの回収ボックス |
| 3 環境配慮商品の販売 | 9 こども靴常設下取りコーナー |
| 4 クールビズ&ウォームビズ商品の販売 | 10 グリーンカーテンの設置 |
| 5 店内エコ見学会 | 11 法人外商部による環境ビジネス（次頁の記事をご参照ください） |
| 6 お客さま用分別ごみ箱 | |

そごう・西武従業員の取り組むエコ

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 コンポストによる食品ごみの肥料化 | 8 コピー用紙の使用量チェック |
| 2 納品時の段ボール削減 | 9 階段の2up3down運動 |
| 3 LED照明を採用した売場 | 10 営業時間外納品 |
| 4 屋上緑化と壁面緑化 | 11 フロン使用機器のチェック |
| 5 エコステーション（ごみの分別とリサイクル） | 12 トイレの消音装置の設置と洗面所の節水 |
| 6 再生資源を利用した売場ツール | 13 店舗周辺の地域清掃 |
| 7 書類のデジタル化と裏紙の有効利用 | |

全店での地道な取り組みで 環境負荷の低減へ

2010年度 環境配慮実績

1999年に百貨店として初めてISO14001を取得して以来、現在に至るまで、私たちの環境活動は着実に成果をあげています。

CO₂排出量
206,473t

(前年より18,114tの削減)



東京ドーム365個分の
森林が1年間に吸収できる量の削減
※森林のCO₂吸収量10.6t/haとして

店舗での電気使用量(年間)
444GWh

(前年より33GWhの削減)



一般家庭の約9,500軒分の削減
※一般家庭1世帯の年間使用電力=3.48MWhとして

店舗での水使用量
3,708km³

(前年より136km³削減)



50mプール54杯分の削減
※プール=長さ50m×幅25m×深さ2mとして

容器包装使用量
1,720t

(前年より70t削減)



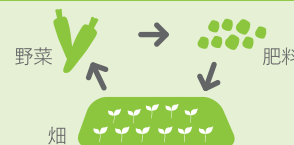
廃棄物量/リサイクル率
31,687t/58.2%

(前年より562t削減/リサイクル率4.3%アップ)



食品廃棄物のリサイクル率
42.5%

(前年より18.4%アップ)



※上記データはそごう、西武、ロビンソン全店を含む。但し、「廃棄物量・リサイクル率」のみそごう、西武の合計値。

法人外商部のECOプロモーション

企業・団体さまの「環境対策」に関するお悩みに百貨店が貢献しています。



「法人外商部」とは？

そごう・西武には、店頭での販売サービスのほかに、企業、団体さまのニーズにお答えする私たち「法人外商部」があります。百貨店事業の中で培った環境対策のノウハウを活かし、企業団体さまに「環境に配慮した商品」「リサイクル商品」の開発、販売や「ユニフォームのリサイクルシステムの構築」などのご提案をさせて頂いています。

法人外商部 企画立案担当 根本 幸



間伐材等を使用し、環境に配慮した包材のご提案

包材・資材からのエコロジー

製品に使用するギフトパッケージなどの包材・資材を、環境にやさしく低コストの素材へ切り替えるなど、使用素材の見直しや軽量化のご提案をしています。

上記のほか、お客さまの直面するさまざまな環境課題に対し、トータルな解決策をご提案させていただきます。



「オゾン漂白」により製造時で省エネ、排水の環境負荷を低減したタオル

エコロジー商品によるセールスプロモーション

エコバッグなど「エコ」をテーマとした商品や製造段階で環境負荷を軽減した商品、カーボンオフセット商品など環境に配慮した商品のご提案を行い、企業団体さまのイメージ向上に寄与しています。



ペットボトルからの再生ポリエステルを使用した制服

ユニフォームのエコロジー化

企業・団体さまへユニフォームの素材選びなど生産段階での環境配慮だけでなく、廃棄後の再利用方法まで、トータルな環境負荷を考慮したご提案をしています。

お問い合わせ先 株式会社 そごう・西武 法人外商部 企画立案担当
TEL 03(6272)7522 FAX 03(6272)7983
法人外商部HP <http://www.sogo-seibu.co.jp/gaisho/>

人で、設備で、サービスで さらに「人にやさしいお店」へ

どなたにも安全・安心な店づくりとお客さまの暮らしのサポートに取り組んでいます。

初めてのママの悩みを専門スタッフが解決！

「プレマステーション」
西武池袋本店 6階 こども服フロア
そごう横浜店 8階 こども服フロア



「何を準備したらいいのかわからない」「育児について周りに相談できる人がいない」そんな初めてのママならではの出産準備から育児までの不安や悩みを、助産師をはじめ、専門家のアドバイスで解決。また、母親教室なども開催しています。

「オーガニックコットン」を使用した製品の販売



地球環境にやさしい商品として、自社ブランド「リミテッド エディション」シリーズのベビーウェアや、ニットの素材にオーガニックコットンを採用した商品を販売しています。

開発にあたり、原材料の産地から製品が店頭へ並ぶまでの流通履歴（トレーサビリティ）が明確な素材を使い、日本オーガニックコットン協会（JOCA）の認証を受けた、信頼性ある製品をご提供しています。

また、プレマステーションに寄せられたお客さまの声を活かして、オーガニックコットンを使用した「ベビー組布団」「スリーパー」など6アイテムを開発・販売しています。

品質管理と安全・安心な商品提供への取り組み



事故を未然に防止するため、食品では全国の主要製造工場の点検を徹底し、不備の改善指導を実施。衣料品・雑貨では、バイヤーをはじめ店舗従業員の体系的な研修を行っています。万が一の事故発生時は、主要原因を把握し、全店で共有化することにより再発防止の徹底を行います。また、第三者専門機関に日頃の管理状況の点検を依頼し、厳しい目で評価することで日々改善に努めています。

安全・安心な売場づくりへの取り組み



1 ハートフルアドバイザーの配置

お体の不自由なお客さまを的確にサポートする認定技能資格を持ったスタッフです。2010年度時点で844名のスタッフが取得しました。



ハートフルアドバイザーが胸に付けているパッチ

2 防犯・防災への取り組み

各店舗に「防犯防災対策委員会」を設置。定期的に消防・地震訓練を実施しています。

3 お客さまの個人情報の保護

個人情報保護法に則った社内ルール「7つの禁則事項」を従業員全員に徹底し、お客さまの個人情報保護に努めています。

4 AED（自動体外式除動器）を全店に設置

5 店内での車いす・ベビーカーの貸し出しと、スロープの設置

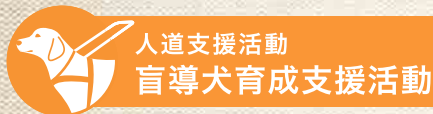
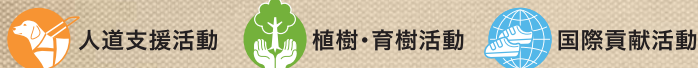
6 ベビー休憩室に火傷防止機能付き給湯器を設置



ハートマークのパッチを付けている者がハートフルアドバイザーです。ご来店頂いたすべてのお客さまに安心してご購入のお楽しみ頂けるよう、誠心誠意お手伝いさせていただきます。どうぞ、お気軽にお声掛けください。

西武池袋本店 コンシェルジュ
垣沼美代子（ハートフルアドバイザー）

お客さまの思いをカタチにする



目の不自由な方々の心に寄り添う 最高のパートナーを届けたい

盲導犬の育成と役割



盲導犬は目の不自由な方に常に寄り添い、道中のあらゆる障害物、段差や曲がり角の存在をユーザーに伝え、安全な移動をサポートすることが主な仕事です。

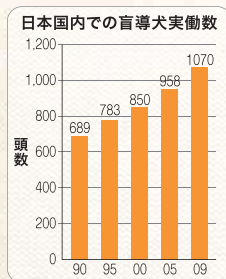
盲導犬は生後2ヶ月より約10ヶ月間をボランティアの家庭で過ごし、1歳から候補犬として訓練センターにて約1年にわたる盲導犬訓練に入ります。基礎的な誘導の訓練、道路の交通状況から安全・危険を判断する訓練、電車やエレベーターに乗る訓練などを繰り返し行い、度重なる適性チェックを受けます。晴れて盲導犬としてデビューできるのは候補犬の3~4割。人間社会の中で活躍する盲導犬には、徹底した訓練と素質が求められます。

※上記は日本盲導犬協会の育成を参照

盲導犬育成の実情

1頭の盲導犬を育成するには多くの費用を要します。そのほとんどが寄付・募金で賄われているのが実情です。

盲導犬を待ち望む人は国内で約7800名と言われています。それに対し、訓練を終えて新たに誕生する盲導犬は2010年度で138頭※。盲導犬の実働数は毎年増加傾向にありますが、その伸び率は決して高くなく、今後の盲導犬育成のさらなる発展が必要とされています。



※社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会リハビリテーション部会盲導犬委員会調べ



私たちは、安全で快適な歩行を提供すると同時に、視覚に障がいのある方々への正しい理解を啓発することにより、彼らが暮らしやすい社会を作っていくことが重要な使命と考えます。そごう・西武さまは、ふれあいキャンペーンを通じて、多くの市民へ語りかける場を提供して頂ける大切なパートナーです。今後も盲導犬を応援してください。

公益財団法人 日本盲導犬協会
普及推進事業部 セネラルマネージャー 高野秀一様

「3つの社会貢献活動」

お客さま一人ひとりの「やさしさ」がだれかを救う大きな力に変わります。「やさしさ」でつながる笑顔と笑顔の絆づくり。そごう・西武がお客さまとともに実現する「3つの社会貢献活動」に、ぜひご協力ください。

そごう・西武の取組み

店頭募金箱・イベント等を通じ、盲導犬へのご理解と盲導犬育成支援へのご協力をお願いしています。



店頭募金+ふれあいキャンペーン

全店で犬型募金箱を設置し、お客さまのご支援を地域の盲導犬協会へお届けしています。

また、春と秋の年2回「盲導犬ふれあいキャンペーン」を開催。盲導犬のデモンストレーションや体験歩行等を通じてみなさまに盲導犬に対するご理解を深めて頂く機会を設けています。



犬型募金箱

ワン! コイン倶楽部+そごう・西武基金 (社員積立募金) (労使共同出資)

お客さまからの募金に加え、そごう・西武では会社と労働組合で基金を設立し、この基金に社員積立参加型募金制度「ワン!コイン倶楽部」を組み入れています。

2010年度分の募金総額は4,158万円になりました。



日本盲導犬協会では募金の一部で搬送用自動車を購入



植樹・育樹活動 未来の森をつくる活動

自然と人の共生を目指した 森林再生プロジェクトへの参加

森林の再生

近年、地球温暖化に対する急激な関心の高まりにより、植樹活動はCO₂吸収効果の面で取り上げられる傾向にあります。森林再生の目的はそれだけではありません。

生態系の保全: 森林の喪失はそこに生きる生物はもちろん、土壌侵食などを通じて川や海の生態系にも影響しています。沖縄では上流部の伐採により赤土が流れ、サンゴ礁を破壊している事例も。森林再生は広範囲の生態系保全において重要とされています。

水源涵養: 森は雨を貯蓄して河川の水量を安定させ、水質を保つ効果があります。

土砂災害防止: 枝や葉により豪雨の直撃を和らげるとともに、樹木の根は土壌を押さえこみ、浸食や流出を防ぐ働きを持っています。

このほか、海外では広範囲の森林の消失による砂漠化や、森に頼って生きる地域住民の生活手段の喪失も問題となっています。急激な伐採、山火事、自然災害等による森林の消失は、私たちの暮らしに大きな影響を与えかねない問題であり、持続的な森林再生への取り組みが必要とされています。



森林再生に求められる「育樹」

こうした森林の再生は、樹を植えただけで終わりません。苗木の成長を阻害する雑草駆除などを行い、森として育つまで10年、20年単位で成長を見守る必要があります。そごう・西武が提携する認定NPO法人 環境リレーションズ研究所が行う森林再生プロジェクト「プレゼントツリー」では、植林する地域の方々と一緒に、適切な管理のもと森林の成長を見守っていきます。



「Present Tree (プレゼントツリー)」の「プレゼント」には、「地域」や「未来の地球」への贈り物という意味が込められています。そごう・西武でのみなさまのショッピングを通して、おかげさまで今までに約1haの日本の森が再生されました。みなさまのエコアクションが、着実に「未来の森」を増やしていることに、心から御礼申し上げますとともに、これからもどうぞよろしくお願いたします。

認定NPO法人 環境リレーションズ研究所
理事長 鈴木敦子様

そごう・西武の取組み

お客さまの毎日のお買物が
「未来の森づくり」に役立っています。

森林再生プロジェクト 「Present Tree」との提携

お中元・お歳暮ギフトの簡易包装や、マイバッグ運動へのご協力件数に応じ、植樹・育樹を実施しています。

Present Tree®

「プレゼントツリー」は個人・法人の環境貢献活動を支援する市民参加型の森林再生プロジェクト。寄付を通じて植林を必要とする国内外の森林の整備や維持管理を、地域と協働し連携しながら実施しています。

ギフトの簡易包装

そごう、西武では、お中元・お歳暮ギフトの簡易包装へのご協力を願っています。感謝の印として、簡易包装4000個に対し1本を植樹しています。



マイバッグ

食品売場でのお買物の際にマイバッグをご持参頂くと、1万件につき1本を植樹しています。



グリーンラッピング

プレゼントギフトをご注文の際、リーフマスコット付きリボン（税込100円）をご購入頂くことで、80件につき1本を植樹しています。



「子どもと育てる未来の森」クマちゃんの どんぐりを育てようキャンペーン

店頭では、お子さまも参加できる植樹活動を行っています。「おかいものクマ」がお渡しするどんぐりをご自宅でご育て頂き、成長した苗木を環境団体を通じて植樹する参加型の植樹活動です。





国際貢献活動
途上国物資支援活動

途上国の妊産婦と子どもたちの 生命を守るために

アフリカ途上国の実情

世界の途上国でも、とりわけアフリカ南部諸国では、水不足、食糧難、病気の蔓延など多くの深刻な問題を抱えています。その中で、そごう・西武は国際協力NGO ジョイセフと提携し、ザンビア共和国での支援に力を入れています。

この国での深刻な問題のひとつが、妊産婦や乳児の高い死亡率。およそ10万の出生に対し470人の妊婦が亡くなっており、これは日本の約80倍近い割合です。

同国コッパーベルト州マサイティ郡では、12万人が東京都の約3倍の面積の広大な土地に住み、そこには医師1人、助産師が12人しかいません。医師や助産師の出産介助が得られない、不衛生な自宅での出産により、多くの母子が命を落としています。また、女性が出産の時期や子どもの数を自分で決めることを許されず、若すぎる出産や多産、無理な出産間隔を強いられ命を落とすこともあります。幸せであるべき生命の誕生を守るべく、健全な環境と女性の権利を整える活動が必要とされています。



「靴」がもたらす母子の笑顔

ジョイセフが活動する地域のひとつ、マサイティ郡は、寄生虫の感染率が高い地域でもあります。その原因は、裸足での生活。

寄生虫病や破傷風のリスクを抱えても、自給自足の生活が中心の農村では靴を買う余裕がなく、多くの子どもが裸足で生活しています。

子どもたちに靴を届けることで、そうしたリスクをなくすだけでなく、靴を提供する際に親子に健康の大切さを伝えることができ、他の保健衛生活動にも積極的に参加するきっかけづくりにも役立っています。



「子どもたちが、靴を履く前に足を洗っている」という嬉しい報告がザンビアから届きました。今まで泥だらけの手足でも平気でしたが、「靴」を履くことで、行動が変わってきました。どんなに手足を清潔にしないといっても、履く靴がなければ誰も気かけません。リサイクルの靴を活用した健康教育の効果が少しずつ現れてきたようです。みなさまの温かいご支援を引き続きよろしく願い申し上げます。

公益財団法人ジョイセフ 専務理事 石井澄江様

そごう・西武の取組み

国際協力NGO ジョイセフと連携し、お客さまのご協力のもと、ザンビアの母子を救う活動を行っています。



子ども靴下取りコーナー（常設） & 下取りキャンペーン

ジョイセフが実施するザンビアの子どもたちに靴を贈るプロジェクトでは、そごう・西武・ロビンソン全国22店舗（2011年10月現在）が窓口となって子ども靴の下取りサービスを実施し、リユースとしてザンビアの子どもたちに贈る活動を行っています。常設の子ども靴下取りコーナー、および下取りキャンペーンを通じて回収した子ども靴は2011年8月時点で189,442足。製品の状態を確認し、一部をリサイクル等に活用した上で、寄贈を実施しました。



「母子の命を守る」支援活動

そごう・西武各店では、「下取品の寄贈」だけでなく、世界で毎日1000人の妊産婦がなくなっている現状をふまえ、「母子の命を守る活動＝ホワイトリボン運動」を支援しています。クオリティの高いファッションやイベントを通し、途上国の母親となる女性たちの命や健康を守るための活動「MODE for Charity」や国際協力NGO ジョイセフの活動に協力しています。



©佐藤雄治